

子供を育てる鈴鹿サーキット

私たちは八月三日に鈴鹿サーキットへ取材に行きました。総務部の大塚さんが仕事をする上で大切にしていることは、社員がチャレンジする環境を作ることとおっしゃっていました。そんな鈴鹿サーキットでは幼い子供が沢山のチャレンジができるようなアトラクションが多く、沢山チャレンジをし、子供が自発的に挑むことで心を大きくすることができるよう大アミューズメントステージを作りました。その上で社員も子供の成長心を見守り育てることでより小さい子供に「できたー」という気持ちを上向きさせるために社員がチャレンジをするという心を心がけているそうです。

また鈴鹿サーキットでは来たお客さんに楽しく帰ってもらうことも心がけているそうです。社員と共に遊び挑む心を向上し、また来たいと思ってもらえるようにしています。約二千円で値段は少しお高めですがそれに対等した経験を積めて楽しむことができます。

←総務部の大塚さん



↓子供と共に社員がチャレンジしている様子



創業当時のこと

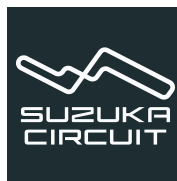
本田宗一郎さんは本田技研工業の創設者でありながらレースが好きだったため、ホンダモビリティランド株式会社というレーシングコースを作りました。ホンダの副社長であった藤澤武夫さんが「サーキットだけでなくファミリーも楽しめないといけない」と言いそこからレーシングコースだけでなく体験型自転車遊園地を作りました。そこから、「安全なくしてポストイタリテイなし」というモットーから安全第一を心がけて仕事に取り組んでいます



藤澤武夫



本田宗一郎



キャラクター紹介

鈴鹿サーキットのキャラクターは手塚治虫が手がけました。彼らは、ちいさな惑星「MOMO」からある日スターローラーという秘密の乗り物で地球にやってきました。彼らがいることで子供がより充実して楽しめます。



編集後記

今回の新聞作りで幼い頃から行っていた楽しい鈴鹿サーキットのことについてたくさん知りました。例えばチャレンジ心を向上させるのが鈴鹿サーキットのモットーだったりその場その場での注意点など全てが私たちお客さんを楽しませるための過程でも素晴らしいと感じました。鈴鹿サーキットの社員の方々のように、人のために行動し周りの人たちの笑顔をつくることを私たちも心がけていきたいと思えました。